

新中期計画に向けた方向性

テルモ株式会社

代表取締役社長

新宅 祐太郎

2012年10月30日

新中期計画に向けた方向性

■ 世界で存在感のある企業を目指す

- 『10年で1兆円』から逆算的な戦略は取らない
- 持続的かつ収益性のある成長

■ 主な施策

- 事業ポートフォリオの見直し
- 低侵襲領域でのパイプライン強化
- 業務効率化・グローバル機能強化
- 中国・ブラジル・インド：現地化、提携

低侵襲領域でのパイプライン強化

■ 低侵襲プロジェクト順調に進捗

- 中計における成長牽引商品を確実にローンチ（ノボリ、OFDI、ミサゴ）
- ミサゴ（日本）のローンチは前倒し予定（中計では2013年度を予定）

■ 低侵襲領域の重点戦略の推進

- 循環器領域の継続的な拡大
- ニューロ・ペリフェラルの強化
- 血管イメージングの強化

■ 新中期に向けて下期に新製品を投入へ

低侵襲戦略に沿った新製品ローンチ

	2012年度	2013年度	14-16年度
循環器領域の 継続的な拡大	<p>Nobori (薬剤溶出型ステント)</p> <p>バイオセンサーズ社 との契約延長(欧亜)</p>		<p>新DES</p> <p>米国治療</p>
ニューロ・ ペリフェラル の強化	<p>フレッド・欧州 (血流改変ステント)</p> <p>エルビス・欧州 (コイル留置用ステント)</p> <p>アズール・日本 (末梢血管用コイル)</p> <p>ミサゴ・日本 (末梢血管用ステント)</p>	<p>米国</p>	<p>日本・米国</p> <p>米国</p>
血管イメージング の強化	<p>OFDI・欧州 (血管内画像診断装置)</p>	<p>日本</p>	

TBCTの進捗

■ 販売統合

- 日本での成分採血装置のシェアが50%に近づく

■ 生産統合・拡大

- ベトナムのホーチミン近郊に新工場用地を取得
- 生産統合プロジェクトの本格スタート

■ 新製品開発

- 米国血液銀行協会学会 (AABB) で新しい血液自動製剤システム (TACSI 1次遠心、Reveos) を公開

■ 厳しい市場・競争環境下でも計画以上の利益とFCFを確保

中国の影響

■ 上期影響は軽微、通期見通しは達成予定

- 心臓血管領域事業は通期でも影響軽微
- ホスピタル・血液システム事業には多少の影響

■ 中国戦略への影響

- 輸出モデルから現地生産・現地販売の加速
- 人件費高騰への対応：省人化への投資
- グローバル輸出基地はアジア工場へシフト

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。